

ふれあい

平成24年4月 第310号

大代地区コミュニティ推進協議会
(広報部)

事務局：大代地区公民館(生涯学習課分室)

TEL 022-368-1141 (内線510)

掲載目次

- 多賀城市の復興と大代地区の変化・・・1
- 3.11鎮魂の鐘突行事を終えて・・・2
- “きれいな大代”と今・・・2

- 震災廃棄物仮置き場設置について・・・3
- こみプロ情報(一)・・・4
- 大代の歩み(四十五)・・・4

大代地区の世帯数(平成24年2月29日現在)：東区341、中区304、西区277、北区116、南区570、合計1,635

多賀城市の復興と大代地区の変化

大代北区町内会

会長 加藤 渉

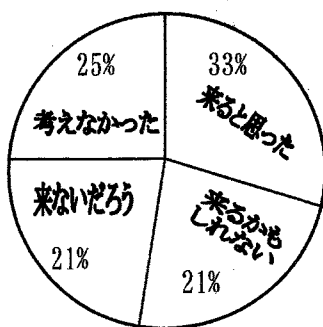
多賀城市は、復旧期3年、再生期4年、発展期3年、10年の基本計画構想を打ち出した。それでは身近で、目に見えるところから紹介しよう。

大代公園にある放送装置は、アナログ(有線で情報を処理する装置「電話回線」、雑音が多く聞き取りにくい)だったものを、無線で(携帯電話みたいなもの)受信できるデジタルに変わる。



これは、雑音が少なく、はっきりした音声で受信ができる。その為の工事が3月末までの間に、指定場所に設置業者が入る予定だ。大代地区公民館や指定避難場所の学校などには、直接相互通信のできる(アンサーバック機能)が設置され、情報の孤立がなくなると思われる。しかし、窓を閉め切った部屋では、聞き取れない可能性がある。そこで、誰でも受信できるラジオがあると、情報が的確に伝わると思う。多賀城市は、FM放送の設置を検討している。但し、災害用としての開局は、次の災害が発災した時点の許可になるので、時期は鮮明でない。開局完了放送開始のところもある。名取市は、名取災害FM(なとりけい801(はちまるいち))が情報提供を開始する。これに対し、多賀城市の対策は、後手になっている。もし前述の施設設備があったならば、どれぐらい被害が軽減できたのだろう、私事の

試算(ネット情報利用)だが、左の円グラフは、津波の襲来をどのように思っていたか?の意識調査(東日本放送調査データより)であるが、半数以上が津波を意識していない。また地震後の大津波警報について、「聞かなかった」が全体の4割以上に上っており、特に名取市、多賀城市、山元町が多く、反対に南三陸町では「聞いた」が9割近くになっている。これは、防災放送端末が既に各家庭に設置されており、デジタル化された広報装置を傍受者の9割が利用している証と言える。

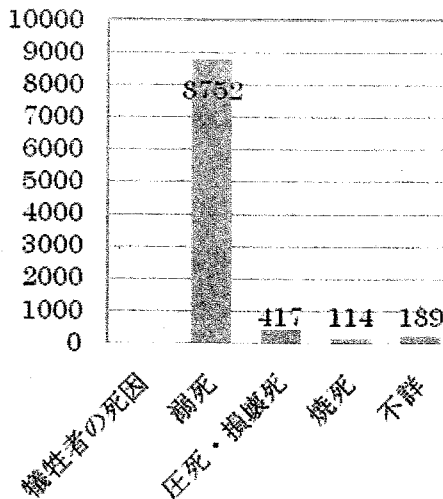


ただ、地震による津波が、来ると思ったという人を除くと、67%の人が半信半疑で、情報を把握しきれなかったようだ。情報をキャッチして即回避行動をとれば、半数以下の値が得られたと思う。

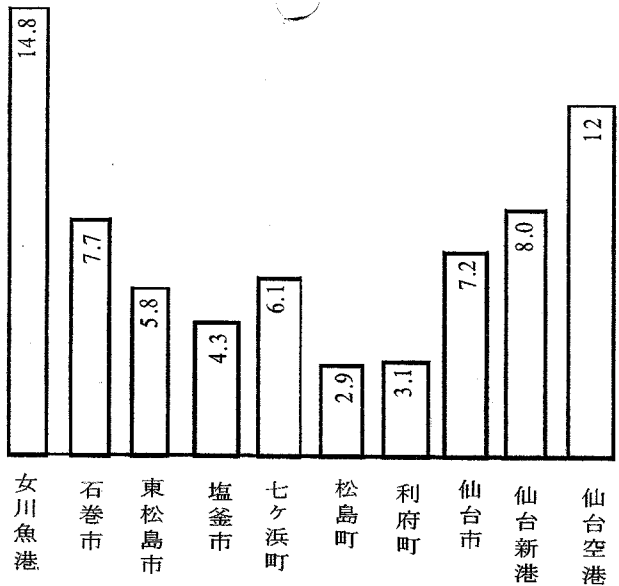
多賀城市は、市内での死者数188人(男112人、女76人)、その内多賀城市民147人(男86人、女61人)、行方不明者1人(男1人)で、地震津波情報を聴いて早めに避難できていたら、その内の59人は助かっていた可能性が高い。

起震は、3月11日(金)14時46分頃、津波の到達時刻は、15時29分頃であり、約30分で津波が到

死亡の要因



今回の震災による死因のほとんどが溺死であったことから、多賀城市大代貞山運河の潮位変化による到達時刻の情報が正確でかつ行動が機敏に行える訓練が出来ていたら、犠牲者はもっと激減している。



上の図は津波の高さを表示、大代は、七ヶ浜町が対象の適価

達している。

大代地区でも冠水の被害があったが、北区内居住者の地震、津波による犠牲者(死亡)はなかった。災害の対応は、今回の震災を軸とした訓練と組織を強化する必要がある。やはり転ばぬ先の杖が必要なることを実感した。

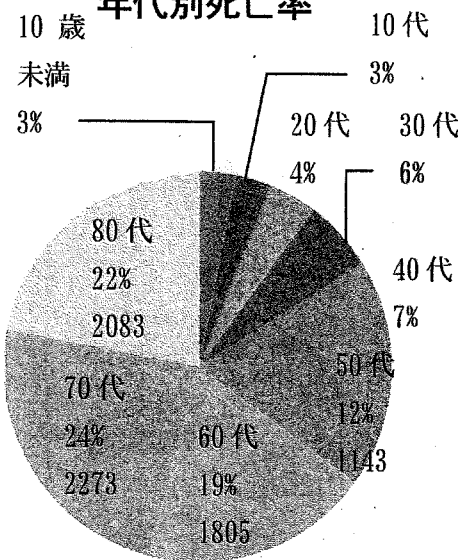
3. 11鎮魂の鐘突き行事を終えて

大代中区 高橋 秀秋

昨年の東日本大震災から3月11日で丁度1年

が経つことから、柏木神社において鎮魂の鐘突きを行いました。参拝者は、大代中区だけでなく、他の区の方も加わり、全部で54人の方が行事に参加されました。開始にあたり、小野菊郎区長から開催に至った経緯やご協力いただいた方々の紹介があった後、一人ずつ献花と鐘突きを行いま

年代別死亡率



死亡者の年齢別比率は、高齢になるほど高く、60歳以上の死者の比率は64.4%であった。

した。そして、14時46分地震のあった同時刻に全員で黙祷致しました。

参加された方々には、震災以降、久々に顔を合わせ、互いに無事を喜び、近況を語り合い、次の再会を期待する会話が、あちらこちらから聞こえてきました。小規模の行事でしたが、思いの外多くの方が参加され、滞りなく実施できたことに対し、心から感謝申し上げます。またお供え物等のご協力頂きましたフーリス トー玄(いちげん)様、柏木神社宮司様、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

今後とも、地区の行事に関心を持っていただきますよう宜しくお願い申し上げます。



行事に参加した人達



小野区長が最初に鎮魂の鐘突き

“きれいな大代に”と今

大代西区 小畑 貞雄

数年前から毎月第1日曜日、空き缶などのゴミ拾いを行っておりますが、今年最初の活動日は、4月1日にあたります。震災以降、一緒にやってきた仲間と逢うのは1年ぶりですが、久々に活動(空き缶、

ゴミ拾い)できる目を心待ちにしています。ゴミ拾いは、朝6時から約1時間かけて行っています。拾う範囲は、念仏橋からホームマックまで、リーダーの佐藤重太郎さんの指示により、3班程度に分かれて開始しています。特にゴミの多い場所は、ホームマック南側産業道路の中央グリーンベルトです。信号が止まった時捨てるのだらうと思いますが、ありとあらゆるゴミが散乱しています。その中には、アルコール類の空き缶がたくさ入っており、あまりの量にびつくりします。拾った後、分別して佐藤重太郎さんにゴミ捨てをお願いしております。

こうした住民活動(自分たちが住んでいる町をみんなで綺麗にする取り組みなど)が、大代に住む人達の繋がり、絆を深めているのだと思っています。本当に大切にして行きたいと思っています。

先週の朝早く、自衛隊員が営門の左右約100メートルに渡って歩道のゴミ拾いをしていました。声をかけてみると毎朝、自主的に交代でされているとのことでした。ただただ感謝するばかりです。「ひとつ拾えばひとつだけ綺麗になります。」皆様のご力をお願い致します。

私事ですが、震災で家が全壊し、昨年4月に塩竈市香津町に引っ越しました。市立病院の北側で、2階建ての一戸建てを借りることができました。日当たりも良く、庭もあり、静かな所がとびつきり気に入っています。交通の便も、数分で西塩釜駅があり、とても便利です。大代の家は、1月に解体しましたが、これから先のことは何も決まっておられません。また大代に戻った時は、宜しくお願い致します。

震災廃棄物仮置き場設置について

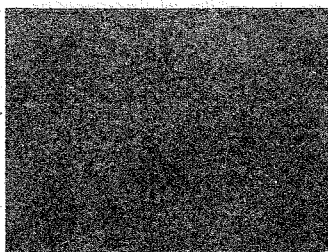
多賀城市生活環境課

震災による廃棄物の中間処理を終了した物の仮置き場設置についてお知らせします。



貞園橋下流中州 中南部下水道敷地 (県有地)

持ち込みの条件は、可燃物や、臭気の発生するものは搬入しない次の物とします。



土砂

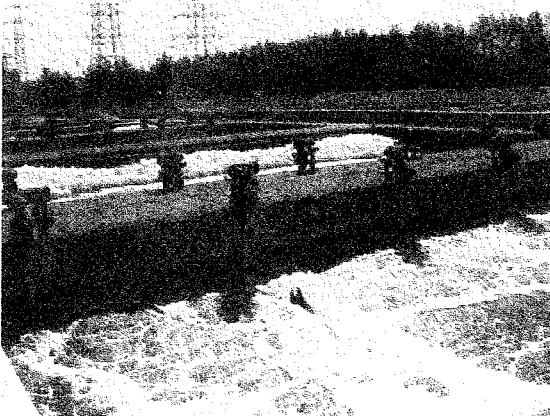
再生碎石



登校の時間帯は、搬入及び搬出の運搬業務を行いません。車両の走行時、搬入、搬出時の粉塵や騒音に留意して作業を行います。

3月14日から再生碎石を搬入し場内の道路整備を行い、それ以降、順次搬入を予定しています。問い合わせ／市生活環境課災害廃棄物対策係

TEL 368・1141 内線 256・258



スタート!! 微生物処理、送風機(コンプレッサー)が復帰
これから期待できる貞山運河の透明度
“勇ましい気泡”



中南部下水処理場のスタッフによる貞山運河周辺の美化推進運動、ご苦労様でした。私達は、クリーンな仕事とクリーンな環境を創生します。

こみプロ情報 (一)

大代コミュニティ推進協議会

事務局 高橋 秀秋

昨年11月からコミュニティ推進協議会の役員を中心に、大代地区の自治力アップのための学習会を実施しておりますが、現地視察研修を含めると既に八回実施しております。大代地区で抱えている地域の問題や将来像などについて、今後どのように進めていったらいいのか、ステップアップを図りながら意見交換を行っております。従って、テーマについても逐次具体的かつ現実的なものとなってきたており、ビジョンを持った事業計画が特に重要となってきました。これまで、大代地区の各町内会や団体等についてもコミュニティ推進協議会との関係性を掲げ、話し合ってきましたが、更に踏み込んだ活動や事業の必要性についても浮かび上がってきました。

た。すなわち、大代地区の諸問題の解決や公民館を管理運営する組織としてやっていくためには、住民の皆様のご理解を得ながら、組織の拡充、住みよい地域づくりにつながる事業の実施が求められていると思っております。

公民館が、まもなく大代地区住民が構成する組織によって管理運営されることから、今後各町内会や地域の団体に関わる話しが出た際には、その都度情報を発信して参りたいと思っております。

今後とも、コミュニティ推進協議会の活動に関心を持っていただき、これからの大代についていろいろ語っていただければ幸いです。

大代の歩み (四十五)

大代南区 渡邊 巖

当時(明治初期)の、大代に於ける全商店の営業品目(延べ店数)は、酒類二・米穀二・八百屋二・菓子二・反物(太物)一・荒物一・煙草一・荒物行商一・豆腐行商一・金銭貸付一・簀(ざる)一・古鉄一・木綿一となっている。だが、多賀城村全体で見ると酒屋が一七店もあるのに醸造(酒・醤油)所が一店無いのは、当時の農村の一般的な傾向かもしれない。また仙台と塩釜・松島の街道途中に位置しながら旅人宿が大代に一戸しか無いのは、利用者が貞山堀などの舟運利用者ぐらいで必要性に乏しかったからかも知れない。

下つて明治三三(一九〇〇)年頃、多賀城村の主な産業はもちろん農業である。当時の土地利用状況を

みると、村の総面積二〇〇〇ヘクタールの内、田が約八〇〇ヘクタール、畑は約三〇〇ヘクタールで、土地利用面積は総面積の過半を占めていて、作付産品は米・大麦・小麦・大豆・蔬(そ)菜類等であったが、経年と共に各種の蔬菜・果物なども加わるようになった。

生産高は、米で見ると明治末期の一万二百三〇石、大正一〇(一九二一)年の一万七千一四九石、昭和一一(一九三六)年の二万一千八三三石、凶作だった昭和一七(一九四二)年でさえ、一万八二一石あった。これは、二〇世紀になつてから四〇年足らずで収穫量は略二倍、一〇〇%近い生産の増加を示す。

これは明治以降、稲の品種改良・作付技術の向上など、農業技術の進歩に弛まず努力を続けた農業関係者の賜物である。また苗代の害虫駆除のため昼間、小学生を動員して布袋で蛾を捕り、害虫の卵を除去させた時代もあった。

米作りに比べ、大麦・小麦は、村内の地域にもよるが作付としては目立たず、大豆・小豆が重要視された。

続く

お知らせ

○平成二十四年度大代地区コミュニティ推進協議会の総会について

日時 四月二十一日(土) 午後二時から

場所 大代東集会所

その他 駐車場が狭いため、車の乗り入れはできない限りご遠慮下さい。